



私（ぼく）たちが思ったこと

～石巻が大好きです～

私（ぼく）たちは、**THE ローリング・ストーンズ**～俺等はそれを **ROCK** と呼ぶんだぜ！～です。今まで、約半年間にわたって、たくさんの活動、話し合いを重ねてきました。アドボカシーチームでは、石巻市復興計画を見て、いいなと思ったことや、こうしてほしいと思ったところを考えて、まとめました。ぜひわたしたちの意見を、これからのまちづくりに取り入れてください。そして私（ぼく）たちはみんなの意見が取り入れられれば、もっと良いものになってゆくとおもいます。

私（ぼく）たちは、子どもたちからお年寄りまで色々な世代の人が交流できるように、また、震災でなくなった子どもの遊び場所を取り戻すために、私（ぼく）たちの「こうしたい」という思いをこめた、石巻を活性化させる施設（子どもセンター）をつくろうと今全力をあげて頑張っています。施設は、具体的に、子どもがたくさん来て、子どもたちが楽しんで、お年よりも安らげる施設です。そして、将来、私たちが運営していきたいです。

石巻がよくなっていくためには、子どもセンターが必要です。それを実現するのは自分たちだけでは難しいので、みなさんにサポートしてほしいです。

例えば、市長公認にして、いろいろな人たちに知ってもらえるようにしてほしいと思います。

そんな私たちの活動を応援してください。

① 特にいいなと思ったところ

P8 政策大綱 1 2 地域の力でみんなで守るについて

自分だけ助かっても、他の人がいなければ一生楽しいことがないから、災害から命を守るための仕組みを変えたり、自発的な防災教育をうながすのは良いことだと思いました。弱い人を助けるだけでなく、会社を強くするのも、いいと思いました。

② こうしてほしいと思ったところ

P8 新たな防災体制の構築について

防災マップのようなところが海のちかくにほしいです。あればすぐに逃げ道にいけるからです。地震の大きさをひなんする所を変えられるようなひなん所のレベル分けもした方がいいです。

・災害情報を伝える仕組みについて

無線は、どこに、どれくらい設置するかを、詳しく知りたいです。

いざというときのために、無線の使い方がわかりやすく書かれたマニュアルがほしいです。

・食べ物について

震災のときは、家に帰れないこともあります。避難した中学校には食べ物も毛布も何もなかったので、家にたくわえるだけじゃなくて、高台の避難所などに場所を決めて、たくさんの人が生活できる食糧や毛布をたくわえるといいと思います。

P13 防災教育の強化について

防災教育に力を入れる学校が増えてきているのはとてもいいことだと思います。しかし、その知識や考えが伝わっていないことがあります。例えば、お年寄りの方は学校で習うことができないし、それは大人にも言えることです。さらに、体が不自由な人は、災害などから命を守る方法をもっと理解していなければなりません。その対策として、まち単位での防災教育を考えました。ひなんルートや逃げる時間と場所、いかに災害がきけんかなど、共有する必要がある情報はたくさんあります。まちのみんなで理解し、協力することで、つながりも深まるし、防災に対する意識が高まると思います。

他にも、祭りなど、人がたくさんあつまるところでは、災害対策ブースをつくって、ひなんルートやひなんじよのマップなどの情報を発信すれば、よりたくさんの人が災害について考えることができると思います。

P2 地盤沈下に伴う内水排水の遅れと沿岸域の冠水について

もとの生活を取り戻すための地上げではなく、未来につながる防災を意識した工事をするべきだと思います。復興計画に冠水したときの内水を外にだす装置をつくるというのがあって、これはとても必要だと思いました。宮城は国内でも、地震が多いところです。宮城県沖とか三陸沖とかいろんな場所で地震が起きるから、これからたくさん起きるかもしれない地震の可能性をしっかりと把握して、震災（災害）に無傷な石巻になってほしいです。また、今回の震災で、あまり被害を受けていなくても、今後の災害などで危険になりそうなところはなおしてほしいと思います。

ほかにも意見が出されました。

なので、これからもお互い声を出し合って、より良い石巻をつくっていきましょう。私たちにも、意見や考えがあったらください。